

# 同和問題を学び、同和問題に学ぶ

## 1 同和問題を学ぶ

◇同和問題とは◇

日本社会の歴史的発展の過程において形成された身分階層構造に基づく差別により、現代社会においてもなお著しく基本的人権を侵害され、特に近代社会の原理として何人にも保障されている市民的権利と自由を完全に保証されていないという、最も深刻にして重大な社会問題である。

## 《歴史》

- ・ 定住する頃から(米作り)…… 役割分担
- ・ 室町時代 …… 庭造り(河原者)など現日本文化を創造し支えた
- ・ 豊臣秀吉 …… 検地・刀狩り ……身分の固定化
- ・ 江戸時代 …… 利用しながら身分制度として徹底

**支配階級** (武士)

**被支配階級**(百姓・町人・皇族・貴族・宗教者・芸能者・学者・医者ほか)

**※百姓や町人とは別に厳しく差別されてきた身分の人々**

【仕事や住む場所・身なりを区別され、祭りへの参加をこぼまれる】

農業、手工業、芸能、治安 社会を支えた。

幕府の弱体化と差別の強化 ……「渋染め一揆」(岡山県)

- ・ 明治時代(富国強兵)

1871 年(M 4) …… 解放令(皇族・華族・士族・平民という新しい形)

政策や改善はなし→さらなる差別・徴兵・権利の剥奪

1922 年(T11) …… 全国水平社 差別をなくす運動

1951 年(S26) 「オール・ロマンス事件」(差別の実態)

1969 年(S44) 同和対策特別措置法 ～2002 年(H14)

## 【差別の現実】

- ・ 結婚・就職における差別
- ・ 日常の付き合いを避ける(祭りごとからはずす)
- ・ 行政施策の対象からはずす
- ・ ちがう、けがれる、こわい等々

## 【正しく知らないことで】

- ・ 逆差別（あの地区だけ良くなる、得している。）
- ・ 寝た子を起こすな（そっとしておけ）
- ・ 「みんなちがってみんないい」

## 2 同和問題に学ぶ

- ・ 江戸時代(身分制度の中)では「あたりまえ」
- ・ 解放令後、偏見にみちた言い伝え
- ・ 「そんなつもりはなかった」という意識での差別



差別解消のポイント ……「あたりまえ」を問う

- 「知らない子にわざわざ教えなくても」 「寝た子を起こすな」  
「差別はしていない」 「もっと大きな問題もある(被差別者の数)」  
「行政の問題だ」 「逆差別だ」 等々の意見

○ 理解してもらうために

- ・ 「考えるべき」から「考えよう」の啓発へ
- ・ 正しく知る(特に明治以降 ……差別を残したのは誰?)
- ・ 平和教育を考えてみると
- ・ 人権への気付きは同和問題から(違いを作りあげての差別)

○「あたりまえ」を問い直す(こだわりを外す)

- ・ 子どもたちの発想の紹介
- ・ 様々なこだわり(あたりまえ)に気付く
- ・ こだわりが悲しみや不幸を生む(孫を抱けなかった祖父の話など)
- ・ 社会のマインドコントロール
- ・ 「あたりまえ」を考える時間(柔らかい発想、こだわりを外す)

### 3 究極のあたりまえ＝命

◎「あたりまえ」の見直し ⇒ こだわりからの解放  
(＝感謝、幸せの想い)

必ず別れが来る。そんな中での出逢い。大切にしたい。  
この時代、この地に生を受け、出逢うことができた。  
そのことを喜び合えるところには差別は存在しない。  
そして、そのことこそ、人生の仕合わせでは？

「逢うべき糸に 出逢えることを 人は 仕合わせと よびます」